平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	きらり鎌ケ谷市民会館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	吉野光雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	平成28年度に実施した避難訓練で出た反省点・意見を踏まえ、平成29年度も来場者の安全を図るために、避難訓練を実施する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	実際にお客様がいる状態での避難訓練をコンサート形式で行い、ショッピングプラザ鎌ケ谷や各センターと共に有事での対応に備える。
②①に基づく取組み結果	ショッピングプラザ鎌ケ谷の施設管理を担当している業者の指導のもと、ホールから出火した想定で避難訓練を2度行った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的　対象	きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センター	意図（対象をどうするのか）	各施設が円滑に運営されている。
②事務事業の概要	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営を行う。		
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	各施設の来場者数が概ね増加している。		

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	来場者数は概ね増加傾向である。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	きらりホール	58,438	57,047	57,402	人	業務取得
ii	中央公民館	95,029	98,295	101,735	人	業務取得
iii	多文化共生推進センター	3,435	2,827	2,383	人	業務取得
iv	男女共同参画推進センター・市民活動推進センター	4,847	5,010	5,977	人	業務取得

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）	114,290	114,081	金額（千円）	内容	115,119
国支出金（千円）			11,094	光熱水費	
県支出金（千円）			12,733	清掃委託	
市債その他（千円）			80,987	市民会館賃借料	
一般財源（千円）	114,290	114,081			115,119

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	来場者の安全を図るため、緊急時での市民会館内及びショッピングプラザ鎌ケ谷との連絡体制の強化					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	5改善
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	2普通		
③上記評価の理由	市民会館内の併設施設を管理運営するにあたって、市関与の妥当性、公平性、有効性は高いといえる。複合施設という観点から利用者にとって利便性がある反面、市民会館を中心に情報共有を常に行う必要性もあることから、効率性は普通とした。課題に対して更なる改善が必要である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績				当初		H25からの繰越	
③達成状況				H25⇒26繰越			
④未完了・非着手の理由				補正		現年分	
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	きらりホールの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	吉野光雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	きらりホールの貸館利用促進と主催事業での来場者数の増加を図る。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	ポスター掲示場所やチラシ頒布場所の拡大など周知方法を改善し、来場者数の増加を図る。
②①に基づく取組み結果	グランドピアノ無料演奏体験等を実施するなど、きらりホールの周知を目的とした事業を行った結果、楽器等の練習目的でホールや練習室を借りる個人や団体が増加した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民（施設利用者）	意図（対象をどうするのか）	市民の芸術文化活動をサポートをする。
②事務事業の概要	きらりホールの管理運営を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	きらりホールは、有料事業も行える本格的なホールであることから、発表の場としての市民ニーズは高い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	全体的なきらりホール来場者数は増加している。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	ホール来場者数	58,438	57,047	57,402	人	業務取得
ii	主催事業来場者数	5,614	5,854	5,130	人	業務取得
iii	貸館件数	212	169	174	件	業務取得

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	47,825	46,846			45,446
国支出金（千円）			7,790	報償費	
県支出金（千円）			144	手数料	
市債その他（千円）	15,502	16,548	28,366	舞台保守管理委	19,032
一般財源（千円）	32,323	30,298			26,414

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	きらりホール主催事業での来場者数の増加を図る。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	5改善
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	「人づくり、地域づくり、まちづくり」の観点から考えると、市関与の妥当性、公平性、有効性、効率性は高いといえる、また、課題に対しての改善が必要である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績				当初			H25からの繰越
				H25⇒26繰越			
③達成状況				補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					